

孝靈天皇、

孝安帝の子なり。

母は押媛皇后にして、

孝安帝の七十六年、

立ちて皇太子となる。

一百二年正月、

孝安帝崩ず。

九月十三日丙午、

孝安天皇を葬る。

十二月、都を黒田に遷し、

是を廬戸宮と謂ふ。

元年辛未、

春正月十二日癸卯、

天皇、位に即く。

時に年五十三。

是を大日本根子彦太瓊天皇となす。

皇后を尊びて皇太后となす。

二年壬申、  
みづのえねる

春二月十一日丙寅、  
はる ひのえとら

細媛を立て、皇后となす。  
くはしひめ た くわうごう

三十六年丙午、  
ひのえうま

春正月己亥の朔、  
はるしやうがつつちのこい ついたち

彦國牽尊を立て、  
ひこくにくるのみこと た

皇太子となす。  
くわうたいし

七十六年丙戌、  
ひのえいぬ

春二月八日癸丑、  
はる みづのとつし

天皇崩ず。  
てんわうほう

年一百二十八。

片丘馬坂陵に葬る。  
かたをかのつまさかのみさき はつむ

追諡して  
つあし

孝靈天皇と曰ふ。  
かうれいてんわう い